

# ピアホームだより

2023. 4. 10

## 令和 5 年度が始まりました

昨年度は、ピアホームⅡの改築移転という一大事業を無事成し遂げることが出来、転機の年になりました。

幸い、新しいピアホームⅡは、職員にも若い力が加わり、描いていた理想のホーム以上の上々の滑り出しとなっています。

先日、卒業生のⅠさんが婚約の報告に来てくれました。嬉しさがこみ上げて来ました。

開設 13 年余り、8~9 年前、我がホームから 1 組のカップルが誕生し結婚、都営団地に住まいを構えることが出来ましたが、ホーム生活を通じて育ててくれた 2 組目のカップルです。

人は、寄り添って生きるもの、障害を抱えて生きる人たちにとっては尚更です。

がんばれー応援するよ！

## 中井久夫を読む

もう2か月以上前になりますが、100分 de 名著の紹介書籍が、精神医療の分野で大きな功績を残された中井久夫先生の名書でした。

お名前を知ったのは 20 数年前、当時は、薬こそ全てとの思いで薬理学に心を奪われていましたから、あまり気に留めていませんでした。

娘と病氣に向きあって、いつしか 20 年を超え、精神病と戦って来たつもりでしたが、？ なのか人間の在り方・生き方を考えることに帰結して来たように思います。

## 「最終講義」から

### 完解過程論

現在では、統合失調症の経過は、前駆期、急性期、休息期、回復期とされています。

80 年頃までの精神医学会では、精神病は不治の病として、段々人格も荒廃して行くものとの考え方が主流であったと思います。従って、その研究対象も発病の契機に焦点が当てられていました。

中井先生は、それを覆し、当時の治療手段でも十分回復可能な病であることを示しました。

そのために調べたのは、医師のカルテに頼ることなく、患者の日常を記した看護記録を丹念に読み込み、慢性期の変化のない症状の中

にいたと思われていた患者の症状に、不斷に変化し続ける完解の過程があることを見つけ出したのです。→完解家庭論の誕生。

### 絵画療法

慢性期にある患者さんは、発する言葉も少なく、そんな患者さんに中井先生は、絵画療法を適用し、患者の状態や回復の過程を窺う手段にしました。一見何の変化もない日常を送っていると思われる患者さんの中に豊かな感情の動きを見つけたのです。心のうぶ毛という言葉が出て来ました。患者さんのかすかな心の動きを優しいまなざしで見守っていたのでしょう。

### 患者に寄り添う、キュアよりケア

中井先生が残した体系的な教科書「看護のための精神医学」には、「医者が直せる患者は少ない。しかし、看護できない患者はいない」との箴言が書かれているそうです。中井先生が、患者に寄り添い、患者と向き合うことで切り拓いた地平ー今日のべてるやオープンダイアローグに通じるものがあるのではないのでしょうか？！

次は、名著「治療文化論」に触れてみたいと思います。

## 4月の予定

4月 20 日：国立精神神経研究センターで会議